

報道機関 各位

尾山遺跡の発掘調査で発見された池跡について

令和2年9月25日

1 趣旨

土地区画整理事業に先立ち、令和2年6月1日より、JR島本駅前の桜井二丁目において、尾山遺跡の発掘調査を実施しています。

尾山遺跡の発掘調査においては、鎌倉時代の池跡と考えられる遺構を発見しました。この池跡は、後鳥羽上皇が造営した水無瀬離宮の施設の一部、もしくは後鳥羽上皇に近い貴族が関与した施設の可能性があります。いずれにしても、島本町の歴史だけではなく、院政期の御所の構造を知る上で重要な資料となる可能性があるため、報道提供を行うものです。

2 概要

令和2年6月1日より尾山遺跡の埋蔵文化財の発掘調査を実施しています。

縄文時代から近世の遺構を確認しており、特に鎌倉時代の遺構としては池跡、溝跡、井戸跡などを確認しています。

池跡は平面形が直径約3.5mの円形であり、深さ約80cmのすり鉢状の形状ですが、底面から高さ約60cmにかけて直径10~20cm大の緑色系の石が敷き詰められています。池跡の西側及び北側では、石組みの中から竹製の管が見つかり、池跡への注水装置として設置されたものと想定できます。また、池跡の北側は北東方向に延びる幅約80cmの溝跡と連結し、その連結部には、直径約20cm大の緑色系の石が2石据えられています。この溝跡は、北東から南西方向に延びる別の溝跡と合流し、北東方向に流れるようになっていますが、その合流部には桶が据えられています。その桶の底面には池跡の底面に敷かれた石と同様の緑色系の石が敷かれており、この溝跡も池跡に関連した施設であることがうかがえます。

出土遺物の年代が13世紀後葉から14世紀前葉であることから、この池跡の底面に石が敷き詰められ、竹製の管を石で組むといった施設は、それ以前に整備されたものであることが推察されます。底面付近の石の下には、泥状の粘質土が堆積していることから考えると、池跡はそれ以前から存在していた可能性があります。池跡の近くで平安時代の掘立柱建物跡が見つかり、この地が鎌倉時代以前から水に関する儀式の場として利用されていた可能性があります。

この池跡の石は精緻に並べられ、同系色の石で統一するなどの美意識が働いており、池を造成する専門職人が整備に関与したものと思われます。特に池跡と溝跡の

連結部に据えられた石は、水に濡れると鮮やかな緑色を発し、池を望む人の目を意識して作られたことが明らかです。このような池は、一般庶民では造りえず、皇族・貴族などと言った富裕層が関わったものと考えられます。

島本町内で鎌倉時代の皇族・貴族に関する記述と言えば、藤原定家の日記『明月記』などに、正治元年頃（1199）から後鳥羽上皇が水無瀬の地に造営した離宮を訪れる記事が見えます。水無瀬離宮は建保4年（1216）の洪水により流失したため、翌年に山上に新しい御所が築かれることとなりますが、その新しい御所に関わる庭園遺構を西浦門前遺跡で発見しています。特に庭園遺構内の池跡の形状が今回、尾山遺跡で検出した池跡と形状が似ており、池跡のために緑色系の石を選定しているところも類似していることから、尾山遺跡の池跡も水無瀬離宮に関連する遺構である可能性があります。水無瀬離宮そのものの施設でなかったとしても、京から離れた鎌倉時代の水無瀬の地で突如として関係のない貴族により池などの施設が造営されることは考え難いため、後鳥羽上皇に近い皇族・貴族が関与していた可能性が高いものと思われます。

この池跡が、庭園内の池であったのか、水に関わる儀式の場であったのか、それとも、それ以外の用途に使用されたのかは、今後、この池状遺構の調査を進めるとともに、周囲から検出される遺構や遺物などを精査に分析していくことにより、解明していきたいと考えます。

なお、現地説明会を以下のとおり開催します。

日時：令和2年10月3日（土）（雨天中止）

- ①午後2時00分、②午後2時30分、
- ③午後3時00分、④午後3時30分、
- ⑤午後4時00分、⑥午後4時30分

概要：・1回につき定員は50名とする。

・当日、午後1時30分から現地で整理券を配布する。

（問合せ先）教育こども部 生涯学習課 TEL 075-962-6316（直通）

FAX 075-962-0611

〈問合せ先〉

教育こども部 生涯学習課

TEL 075-962-6316（直通）

FAX 075-962-0611

担当者 木村





池跡（南東から）



池跡（西壁）



池跡 (西壁、竹製管)



池跡 (北壁、暗渠)



池跡北側の溝跡（西から）



池跡の溝跡（桶埋設部分、西から）